

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成16年12月2日(2004.12.2)

【公表番号】特表2000-507154(P2000-507154A)

【公表日】平成12年6月13日(2000.6.13)

【出願番号】特願平9-533076

【国際特許分類第7版】

C 0 2 F 1/68

【F I】

C 0 2 F 1/68 5 1 0 B

C 0 2 F 1/68 5 1 0 J

C 0 2 F 1/68 5 2 0 V

【誤訳訂正書】

【提出日】平成16年2月18日(2004.2.18)

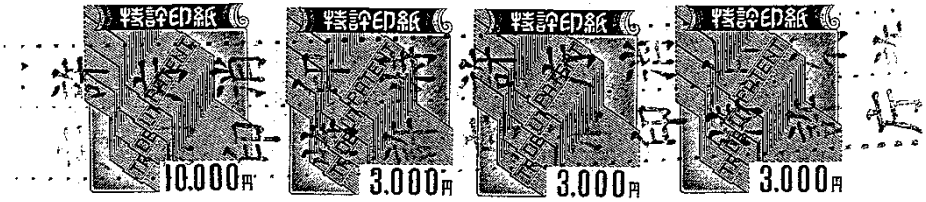
【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】補正の内容のとおり

【訂正方法】変更

【訂正の内容】



誤 訳 訂 正 書

(19,000 円)



平成16年2月18日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第533076号

2. 特許出願人

名 称 テトラ・ゲーエムベーハー

3. 代 理 人

住 所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-12 SVAX TSビル

氏 名 弁理士(7866) 津 国 肇

電話(3502)7212



方 式 査 査



4. 訂正の対象

明細書の欄及び請求の範囲の欄

5. 訂正の内容

I. 請求の範囲の欄

別紙のとおり誤訳訂正及び補正を行う。

II. 明細書の欄

明細書 5 頁 6 行、同頁 1 4 行、7 頁 1 行、同頁 4 行、1 0 頁 1 0 行、同頁 2 7 行記載の「キサnten」を、「キサタン」に誤訳訂正する。

6. 訂正の理由等

I. 請求の範囲の欄

請求項 3 及び請求項 5 記載の「キサnten」を、原文の請求項 3 及び 5 に記載の“xanthan”に基づき、「キサタン」に誤訳訂正する。

II. 明細書の欄

原文 7 頁 9 行、同頁 1 8 行、9 頁 1 2、同頁 1 6 行、1 3 頁 2 9 行、1 4 頁 1 4 行記載の“xanthan”に基づき、誤訳訂正を行う。

請求の範囲

1. a) 塩素及び他の活性塩素化合物のための天然還元剤、

b) 天然錯形成剤、

c) 天然のヒドロコロイドもしくはバイオコロイド、

d) 天然又はほぼ天然の細胞保護性で細菌助長性の化合物及び／又は

e) 天然水の水質に近似させるための改善添加物

から選択される個々の成分又はそれらの組み合わせを含有する、水生動物のための生物学的に好都合ないしほぼ天然の維持水を生成するための薬剤。

2. 該成分が、

a) 還元性カルボン酸及びその塩、アルデヒド基、チオエーテル基及びチオヒドロキシ基を含有する還元性天然化合物及び／又は天然還元剤、

b) 二座又は多座リガンド性を有する有機カルボン酸及びその塩、トリオース、テトロース、ペントース、ヘキソースのモノ及びジカルボン酸、カルボキシル基を有するポリマー、アミノ酸、天然錯形成剤、天然に存在するフェノールカルボン酸、天然のフミン酸及びフルボ酸、天然に存在するポルフィリン系、胆汁着色物質及び／又は天然のペプチド及びタンパク質、

c) 植物、藻類及び／又は微生物によって形成されるヒドロコロイド、

d) 炭水化物、多糖類、ペクチン、ヘミセルロース、デキストリン、キシラン、モノマー糖、糖アルコール、アミノ酸及び／又は天然ベタイン、ならびに

e) マグネシウムの塩及び／又はヨウ化物もしくはヨウ素酸塩

から選択される、請求項1記載の薬剤。

3. 該成分が、

a) ギ酸、シュウ酸、エリトロース、トレオース、アラビノース、グルコース、マンノース、ガラクトース、グルクロン酸、メチオニン、システイン、グルタチオン、D-ペニシルアミン、アスコルビン酸、タンニン酸及び／又はタンニン、

b) シュウ酸、酒石酸、クエン酸、グルコン酸、マンノン酸、D-糖酸、モノ糖酸、ムチン酸、アルギン酸及びアルギネート、ポリグルクロン酸（ヘミセルロース）、アラビアゴム、ガッチゴム、トラガカントゴム、ペクチン、キサントン、グリシン、アラニン、バリン、ロイシン、イソロイシン、フェニルアラニン、チ

ロシン、プロリン、ヒドロキシプロリン、トリプトファン、セリン、トレオニン、システイン、メチオニン、アスパラギン酸、グルタミン酸、アルギニン、リシン、ヒスチジン、オルニチン、L-ドパ、D-ペニシルアミン、没食子酸、ガロタンニン、クロロゲン酸、カフェー酸、キナ酸、クロロフィル、ビリルビン、グルタチオン、カゼイン、アルブミン及びラクトアルブミン、

c) グアーゴム、アラビアゴム、ガッチゴム、カラヤゴム、トラガカントゴム、カロブゴム、ペクチン、デキストリン、タマリンドゴム、アルギン酸、アルギネート、カラゲナン、フルセラン、寒天、デンマーク寒天、キサンタンゴム、スクレログルカン、カードラン（スクシノグルカン）、プルラン、

d) サッカロース、ラクトース、マルトース、スクロース、トレハロース、グルコース、フルクトース、マンノース、ガラクトース、リボース、アラビノース、エリトロース、トレオース、グリセロール、ソルビトール、エリトリトール、マンニトール、イノシトール、グリシン、アラニン、バリン、ロイシン、イソロイシン、フェニルアラニン、チロシン、プロリン、ヒドロキシプロリン、トリプトファン、セリン、トレオニン、システイン、メチオニン、アスパラギン酸、グルタミン酸、アルギニン、リシン、ヒスチジン、オルニチン及び／又はトリメチルグリシン、ならびに

e) カルボン酸、アミノ酸、フミン酸及びフルボ酸のマグネシウム塩、マグネシウム錯体、塩化マグネシウム、硫酸マグネシウム、ヨウ化マグネシウム、ヨウ化ナトリウム、ヨウ化カリウム及び／又はヨウ素酸カリウムから選択される、請求項1又は2記載の薬剤。

4. 酒石酸、ホルメート及びマグネシウムイオンを含有する、請求項1～3のいずれか1項記載の薬剤。

5. クエン酸、グルタミン酸、ホルメート、キサンタン、アラビアゴム、ペクチン、寒天、マグネシウムイオン、ヨウ化物イオン及びベタインを含有する、請求項1～3のいずれか1項記載の薬剤。

6. エチレンジアミンテトラアセテート、ポリビニルピロリドン及びヒドロキシエチルセルロースをさらに含有する、請求項5記載の薬剤。

7. 濃縮水溶液として調製される、請求項1～6のいずれか1項記載の薬剤。

8. 錠剤、粉末混合物、顆粒、押し出し物又はカプセルの形態で調製される、請求項1～6のいずれか1項記載の薬剤。

9. 一定量の水に対する個々の投与量として調合される、請求項8記載の薬剤。

10. 水生動物のための生物学的に好都合ないしほぼ天然の維持水を生成する方法であって、請求項1記載の個々の成分又はそれらの組み合わせを、維持水の中に

a) 0.1～100mg/l、

b) 0.1～100mg/l、

c) 0.1～100mg/l、

d) 0.1～100mg/l 及び／又は

e) マグネシウムイオン0.5～100mg/l 及び／又はヨウ化物1～100 μ g/l

もしくはヨウ素酸塩1.5～140 μ g/l

の濃度が達成されるように、真水又は水道水に導入する方法。

11. a) 0.5～20mg/l、

b) 1～20mg/l、

c) 1～20mg/l、

d) 5～20mg/l 及び／又は

e) マグネシウムイオン1～10mg/l 及び／又はヨウ化物5～20 μ g/l もしく

はヨウ素酸塩7～28 μ g/l

の濃度が達成される、請求項10記載の方法。